「CBDCA＋DOC 療法」について

この治療法は、肺癌の代表的な治療法です。CBDCA はカルボプラチン、DOC はドセタキセルの略称です。

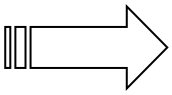
1. 投与方法

Rp	薬剤	効能または使用目的	投与時間
1	生理食塩液	輸液・血管確保・ライン洗浄	―
2	ホスアプレピタント（プロイメンド）＋ パロノセトロン（アロキシ）＋ デキサメタゾン（デカドロン）	吐き気予防	30分
3	ドセタキセル	抗がん剤	60分
4	カルボプラチン	抗がん剤	60分

2. スケジュール

CBDCA＋DOC は28日サイクルで抗がん剤を投与していきます。初日に抗がん剤を投与すると残りの27日間は「休薬期間」といい、体調の回復を待ちます。その後同様にして治療が進みます。

	1サイクル目		2サイクル目	
	1日目	2日目～28日目	1日目	2日目～28日目
投与日	○		○	
休薬日		○		○



3. 特徴

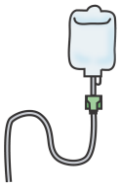
●<u>ドセタキセル</u>

作用：がん細胞が分裂する過程で作用し、抗がん作用を示します。

注意事項：点滴中に痛みや違和感があった場合はお知らせください。

このお薬を溶解するためにアルコールを含む溶液を使用します。

（アルコールに対してアレルギーのある方はお申し出ください）



●<u>カルボプラチン</u>

作用：がん細胞内の DNA と結合することで細胞分裂を止めて抗がん作用を示します。

注意事項：点滴中に痛みや違和感があった場合はお知らせください。

4. 副作用

抗がん剤治療によって起こりうる主な副作用の種類、予防法、そしてそれが出現したときのひとまずの対応方法を知ることが副作用対策の第一歩です。ここでは比較的高頻度に出現する副作用と頻度は少なくても注意が必要な副

作用（有害作用）について掲載しました。
（ただし、頻度や強さには個人差があることをご理解の上で、参考にしていただきたいと思います。）

白血球減少

白血球は体の外から侵入してきた細菌等に対して体を守ってくれる（免疫反応）役割があります。白血球が少なくなると細菌等による感染が起こりやすくなり、感染すると発熱や倦怠感などの自覚症状が現れてきます。場合によっては入院治療が必要な場合もあります。

好発時期：抗がん剤を投与後７～１４日目くらいに減少のピークを迎え、２１～２８日目くらいには回復します。

対策：細菌は手を介して口から入ってくるケースも少なくありません。**手洗い、うがい**を心がけましょう。

外出時はマスクを着用してください。

虫歯が原因になることもあります。虫歯のある方は抗がん剤治療を行う前に治療をしておくことをお勧めします。

好発時期に38℃以上の発熱があった場合はご連絡ください。

脱毛

好発時期：２～３週間過ぎ頃から起こりやすくなりますが、治療終了後２～３ヶ月で回復し始めます。

対策：症状が現れたら、回復まではスカーフ、かつらなどを着用していただけるとよいでしょう。

外出時は直射日光を避けていただくため帽子をかぶるとよいでしょう。

頭皮を清潔に保っていただくことをお勧めします。ただし、刺激の強いシャンプー等は避けてください。

吐き気・嘔吐

好発時期：治療当日から数日間

症状の出方は個人差があり、数日後から出てくる方や、

症状が７日間程度続く方もいます。

対策：抗がん剤による吐き気の強さに応じて事前に吐き気止めの点滴を行います。

症状にあわせて吐き気止めを処方させていただきます。上手くコントロールできない場合はお伝えください。

考えすぎるとそれだけで症状が出てくることがあります。リラックスしてあまり考えすぎないようにしてください。

食事は無理せず、食べられるものを少量取っていただいても結構です。

水分（水、スポーツドリンク、など）はなるべく取っていただいた方がよいでしょう。便秘の予防にもなります。

便秘は吐き気の原因にもなります。必要に応じて下剤を服用することをお勧めします。

部屋の空気を入れ替えたり、趣味を楽しんだりすることで吐き気が楽になることもあります。

食欲不振

好発時期：点滴終了後から数日間で起きてくることがあります。

症状は軽度の場合が多いようで、早期に回復します。

症状が長引く場合は他の原因も考えられるためご相談ください。

対策：食欲がない時には無理をせず、食べられるものを可能な範囲でバランスよく食べましょう。

血小板減少

血小板は出血を止める働きがあるため少なくなると止まりにくくなってきたり、出血しやすくなったりします。

好発時期：抗がん剤を投与後7～14日目くらいに減少のピークを迎え、21～28日目くらいには回復します。

症状としては、**あざが出来やすい、鼻血などの粘膜からの出血が起きやすくなった**、などです。

対策：ケガや転倒の危険性がある作業は避けましょう。

歯ブラシは毛の柔らかいタイプを使うと良いでしょう。

貧血

赤血球の成分が少なくなると貧血を起こすことがあります。自覚症状としては息切れ、動悸、手足の冷え、倦怠感、立ちくらみ、などが現れます。

好発時期：抗がん剤投与後7～14日後より徐々に症状が現れてきます。

対策：激しい運動は控え、無理のない範囲でゆっくり動くようにしてください。

鉄分が少なくなっているケースでは食事から摂取できるよう心がけてください。

倦怠感

好発時期：注射後に体の疲れやだるさを感じることがあります。

対策：こまめに休息を取り、睡眠時間を確保して身体を休ませましょう。

症状が長続きするときにはご相談ください。

しびれ（末梢神経障害）

末梢神経障害は抗がん剤が知覚神経や運動神経を障害することで発症します。症状は手・足先から出てくることが多く、「しびれ」、「感覚麻痺」などが初期症状として出てきます。症状が進行すると筋肉に力が入りにくくなり、「つまずき」や「転倒」の原因にもなります。ほとんどの場合治療が終了すれば回復してきますが、時間がかかる（数ヶ月～1年）場合もあり、症状の強さに応じてお薬を処方することもあります。

好発時期：ドセタキセルの治療が長くなってくると（約5回目以降）症状が出てくることがあります。

症状が進行すると「ボタンがかけにくい」「物を落とす」「1枚膜を張ったよう」「つまづきやすい」など日常生活に影響がでてくる場合があります。

対策：早い時期に発見した方が回復も早いため、日ごろから注意してください。

症状があるときには刺激を与えないよう心がけてください。水を使うときには手袋を使用する、など。

しびれの症状は我慢せず、しびれの強さや範囲、日常生活で困ることをお知らせください。

間質性肺炎

間質性肺炎は、肺が炎症を起こし機能が低下する病気です。確率は低いですが、放置すると重篤化する危険性があります。症状としては**息切れ・呼吸困難、空咳、発熱**などが起こります。また、この症状は肺に病気を持っている患者さんほど起きやすいことが分かっています。上記の症状が出た場合は自己判断せずに早めにご相談ください。

対策：**初期症状は風邪によく似ているため自己判断せずに早めにご相談ください。**

アレルギー

好発時期：投与回数が増えてくると（おおよそ8回程度）発生しやすくなるといわれています。
自覚症状は、息苦しい、顔がほてる、胸が痛い、発疹がでる、汗がでる、などです。

対策：異常を感じたらすぐにスタッフにお知らせください。

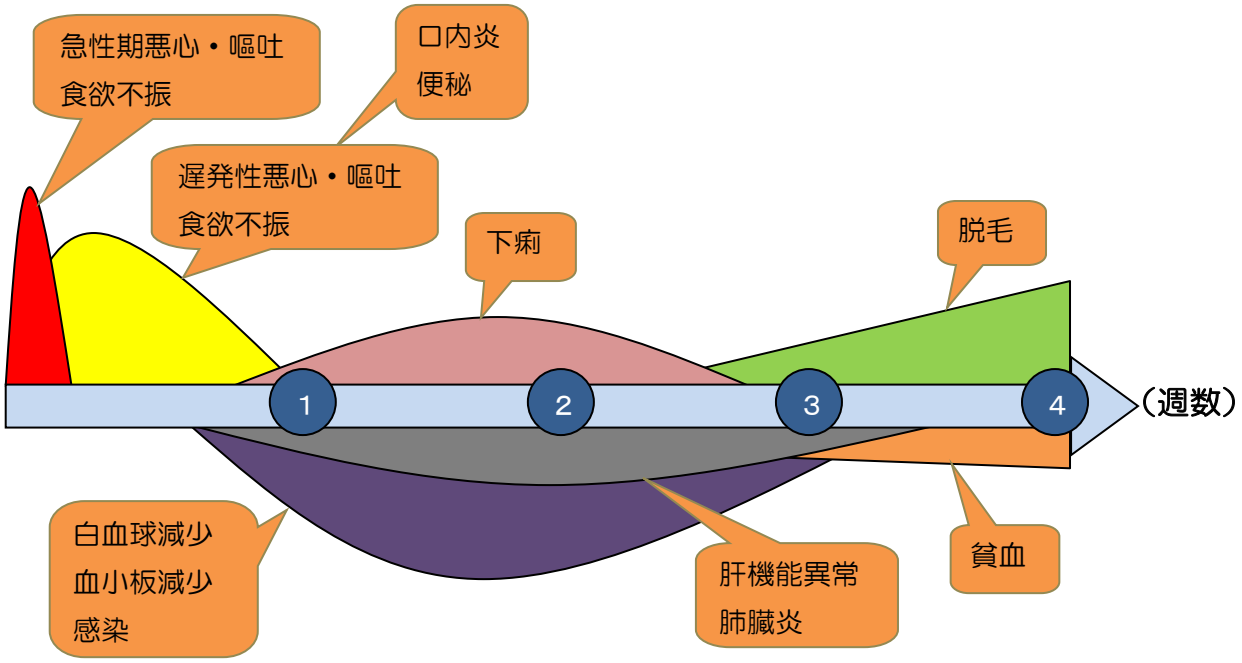
血管外漏出

抗がん剤を点滴しているときに血管の外に薬が漏れてしまう（漏出）ことがまれにあります。症状としては点滴部位の違和感、痛み、腫れなどで、場合によっては血管に沿って症状が出てくることもあります。もし、症状にお気づきになった場合は早めにスタッフにお声掛けください。

好発時期：点滴している間がほとんどですが、帰宅後にもし異常を感じたら早めにご連絡ください。

対策：抗がん剤の種類によって対策が異なります。基本的には患部を温めたり、軟膏や注射による治療を行います。

副作用発現時期（イメージ ）



※この他にも日常と違った症状がでた場合は病院までご連絡ください。

済生会宇都宮病院

代表：TEL　028－626－5500